

タペストリー販売攻勢

日本省力機械 訪日客取り込む

日本省力機械（大阪府茨木市、辰村周平社長）は、国内外でタペストリーの販売に力を入れる。コンベヤーメーカーの同社は、2011年にタペストリーブランドを発足。従来は顧客のペットをデザインした特注品が中心だったが、富裕層やインバウンド（訪日外国人）らの需要増が今後見込めると判断。売れ筋の価格帯の商品をそろえ、展示会や催事などに積極的に出展する。現在は売上高1000万円規模だが、27年度に5000万円に引き上げ、将来の柱事業に育てる。

外商・展示会に出展

日本省力機械のタペストリー事業は、自社で大丸の顧客を招いた開発のじゅうたん用自動織機の技術を活用して立ち上げたのがきっかけ。販売拡大に向け、国内では今秋、大丸松坂屋百貨店の催事などで相次ぎ展示する。29

8月にもリーガロイ



ホテルや百貨店などで展示会を開いて拡販する（大阪のホテルでの展示会）

ヤル大阪（大阪府北區）で展示会を開催するなど、富裕層やインバウンドとの接点を増やしている。同社は動物や景色をデザインした数十万円程度の価格帯の作品をそろえたと

もに、26年の干支である午の作品のカタログを制作するなど販売機会を増やす。海外では26年1月にパリで開催される、世界最大級のインテリアとデザイン関連の見本市「メゾン・エ・オブ・ジエ」に参加する計画。